

被災地というと、当然、東北3県を想起する。ましてや原発事故もあって、福島県の惨状に心を痛める人は世界中に多い。しかし、福島の隣の茨城県も、東日本大震災で震度6強の揺れに襲われ、被災していることが、語られることは少ない。県庁所在地の水戸市は震度6弱だった。倒壊の恐れから現在も立ち入りが禁止されている水戸市役所から目と鼻の先、「駅南バッティングセンター」を通して、忘れられた被災地について考えた。

(バッティングセンター 吉岡雅史)



駅南バッティングセンターの酒井社長。巨人時代の東野投手(現オリックス)がかつてのユニホームを持ってくると、地元出身のプロ野球選手の多くがなじみ客だ

全

国800カ所以上を訪問した「バッティングセンター研究者」の肩書きをぶら下げていると、年に数回メディアの取材を受ける。決まって「ベスト10」の類を問われる。何をもってベストなのかは、最終的にメディアの意図によりけりになるのだが、こちらの主張としては「打ちやすさ」「サービス」などの総合点から、水戸の「駅南バッティングセンター」を全国一として推挙している。

JR水戸駅から、文字通り南へ徒歩約10分。外見は昔ながらのバッティングセンターだ。ここから巣立ったプロ野球選手は少なく

筆

ない。店内には水戸商業出身のデーブこと大久保博元氏(元巨人)に井川慶(現オリックス)、埼玉出身だが水戸にある常磐大学OBの阪神・久保田智之らが来店している名残がある。

筆者が前回訪問した際には酒井社長が、まだ巨人に在籍しローテーションで投げている東野峻(現オリックス)がオフにやってくる「以前のユニホームをくれました」と、広げて見せてくれた。東野投手はさらに「これ子どもたちに」と、サインボールを2ダース分も置いていった。少年たちがプロを夢見て通う

忘れられた被災地に

放射能の恐怖再び

獲量は約18万4000トンで全国6位。昨年は15万5000トンに減ったが、宮城県の落ち込みがそれより激しかったため、順位としては5位である。とりわけ、庶民の食卓に欠かせないサバ漁とイワシ漁は盛んで、毎年のように漁獲量日本一を誇っている。

せっかく地元で豊かな漁場がありながら、放射能を恐れて新鮮な魚が食べられないというジレンマを把握していた人が、全国にどれだけのいるだろう。被災者にとって風評被害は迷惑この上ないことだが、他府県民の無知も始末が悪いなど考えさせられた。

な

にしろ、茨城県にも原子力発電所がある。東海第一発電所は20世紀中に運転を停止

方で、夢をかなえたかつての野球少年がふらつと懐かしそうにやって来る。微笑ましい光景だが、震災はそれさえも破壊しかねない可能性があった。

液化化現象で、バッティングセンターの床はひび割れてボールが転がらなくなり、直径1センチ近くあるコンクリート柱は20センチ沈下した。「停電もあったので10日ほど休みましたが、営業を再開してもしばらくは子どもたちが来なくなりました」と酒井氏は振り返った。

震災による死者は茨城県で24人、水戸市では2人だった。東北3県と比べてしまえば、軽くすんだということになる。それでも、太平洋沿いの市町村の88%が津波被害に遭っている。震災直後、首

して、もった廃炉作業が進められているが、東日本大震災で自動停止したままの東海第二発電所をめぐって、廃炉を求める周辺自治体と再稼働をめざす日本原電との思惑は、平行線をたどったまま。さらに99年には、同じ東海村にあるJCOの核燃料加工施設で3人が死亡した臨界事故が起きた。水戸市と東海村は10キロほどしか離れていない。茨城県民のかかえるトラウマは、計り知れないものがあるようだ。

そ

れでも確実に、街はよみがえりつつある。バッティングセンターの客も戻ってきた。「ほちほち親が子どもを連れてくるようになりましね。最近は、震災以前よりお客さんは増えた

放

射能を恐れて、親が子どもを外に出さなくなったんです。

震災から2年以上が経過して、市街地も目立つところはほとんど復旧した。しかし、前述の通り水戸市役所は今も立ち入り禁止だし、生活道路の復旧工事は来年度工予定なのが現実だ。なにより、放射能という目に見えない恐怖が、今も住民に重くのしかかる。測定値が国の安全基準以下とはいえ、人間の心理とはそんな単純なものではない。

「いまだに地元の魚を食べない、水道水が飲めないという人は多いです。特に若い世代に」と、酒井氏は話してくれた。

茨城の魚といえばアンコウが全国的に有名だ。筆者も、北茨城市の海岸沿いの宿でアンコウ鍋を食したことがあるが、フグやクエにも劣らぬ美味には感動したものである。茨城県は日本有数の漁業王国でもある。震災前の2010年の漁



水戸駅にある「黄門様御一行」の像は被害を免れた

らいです。酒井氏は意外なことを言った。

いつまでも子どもたちを家に閉じ込めておくわけにもいかない。じゃあ、親子でどこに行くか。大人も一緒に体を動かしたり、ストレッチを発散しようとしたら、バッティングセンターがちょうど手軽でよかったようだ。

